



高木 広和 議員

第79回国民スポーツ大会・
第24回全国障害者スポーツ
大会の準備状況について

問 全国から訪れる選手や
関係者の宿泊は

答 県の配宿計画では、想定する宿泊者数の本市での受け入れは可能であるとの結果です

問 競技会場になる安曇川高校は、ウエイトリフティングの全国的な実績と伝統のある高校であるが、大会に向けて相互の協力や支援体制などの構築は出来ているか。

答 教育総務部長

県ウエイトリフティング協会および競技会場であります安曇川高校は、競技式典専門委員会の構成員として参画いただいています。また、他の各開催競技団体につきましても、同委員会の構成員をしていただいております。緊密に連携を図りながら準備を進めているところです。

問 本市で開催される競技会およびリハーサル大会に向けての体制と準備の進め方は。

答 教育総務部長

本年8月に市内外の関係機関、関係団体124名で構成する「わたしEIGA輝く国スポ・障スポ高島市実行委員会」を設置し進めています。開催に向けては、競技会の運営だけでなく、大会関係者の宿泊や輸送、広報やボランティア募集など多様な準備が必要になることから、専門委員会でも充分議論しながら進めていきます。

問 全国から訪れる選手や関係者の宿泊や移動方法は。

答 教育総務部長

県が作成している現段階での配宿計画では、本市の国民スポーツ大会における選手・監督・大会役員の宿泊人数を延べ約5,400人、1日の最大宿泊数は850人と想定しており、本市での受け入れは可能であるとの結果となっています。また、移動方法については、市として安全かつ確実な輸送手段の確保に努めます。

問 県の障害者スポーツ大会の企画や運営は主に県障害者スポーツ協会が中心となり行っているが、高島市実行委員会と県障害者スポーツ協会との関係、連携はどのようになっているか。

答 教育総務部長

全国障害者スポーツ大会は県が主体となつて準備等を進めています。県実行委員会の構成員に、県障害者スポーツ協会と高島市も参画し、情報共有や意見交換を行っており、今後も連携を図っていきたいと考えています。

